



日 時：2019年11月27日（木）14:00～16:00

会 場：株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）

京都府相楽郡精華町光台二丁目2番地2(けいはんな学研都市)

脳科学研究は、十数年前から欧米で医療や軍事分野への応用が始まりました。日本でも、脳の健康へと活かす取り組みが行われ、研究開発だけでなく効果を評価するための脳の健康管理指標『BHQ (Brain Healthcare Quotient)』を国際標準化し、その活用が始まっています。1例として、対話ロボットとの対話が健康にもたらす効果を情報理論やBHQを用いて評価・検証する研究があります。本セミナーではBHQを用いた脳科学の産業応用や脳ロボティクス研究に取り組む専門家をお招きし、脳に良いライフスタイルの提案や製品/サービスの開発取り組み、脳に対する対話ロボットの効果について皆さんと議論します。

＜プログラム＞

- 14:00-14:20 「けいはんなRCの事業化支援活動」
中嶋 淳策 氏 <ATR事業開発室担当部長・けいはんなRC/イノベーションハブ推進サブリーダー>
- 14:20-15:20 「BHQを用いた脳産業エコシステムの構築」
山川 義徳 氏 <NTTデータ経営研究所 情報未来イノベーション本部 先端技術戦略ユニット
シニアマネージャー（前内閣府ImPACTプログラム プログラムマネージャー）>
- 15:20-15:40 「対話ロボットとの対話がもたらす脳への健康効果」
住岡 英信 氏 <ATR石黒浩特別研究所存在感メディア研究グループグループリーダー>
- 15:40-16:00 交流会

申込締切：2019年11月26日 17:00

参加申込：https://keihanna-rc.jp/events/event/bist_191127/

参加費：無料

